

令和8年2月13日
北九州市都市ブランド創造局

報道機関各位

オキナワハクセンシオマネキが近隣のよく知る個体と知らない個体を区別できることを実証！

この度、北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）竹下文雄学芸員と北海道大学石原千晶助教は、シオマネキ類の一種であるオキナワハクセンシオマネキが、なわばり争いの際に近隣のよく知る同種個体と知らない個体を区別して闘争の激しさを調整することを明らかにしました。この成果は行動学に関する国際学術誌「Animal Behaviour」にオンライン掲載されました。当館では、本研究の概要を下記の期間に特別展示いたします。是非、ご取材及びご周知のほどよろしくお願いいたします。

記

1. 研究の要点

オキナワハクセンシオマネキは、なわばり闘争において既知と未知の対戦相手を区別する

オキナワハクセンシオマネキは南西諸島から東南アジアの干潟に生息する小型の甲殻類です。竹下学芸員と石原助教は、奄美大島の干潟で野外実験を行い、本種の未知の個体に対する闘争は既知の同種個体に比べ激しくなることを示しました。この結果は、なわばり闘争におけるなわばり所持個体と非所持個体間の闘争が近隣のなわばり所持個体間の闘争よりも激しくなる、いわゆる「親愛なる敵現象（dear enemy phenomenon）」を、少なくとも部分的に説明することを意味しています。

甲殻類では数少ない既知認知を示した研究例

今回の研究で示した既知の個体と未知の個体を区別する認知能力は、学術的には既知識別（familiar recognition）と呼ばれます。既知識別は、甲殻類ではヤドカリやロブスター、またシオマネキの一種などで示されてきましたが、親愛なる敵現象の文脈の中で既知識別が示されたのは甲殻類の仲間では本成果が初めてとなります。甲殻類が私たちの想像以上に高度な認知能力を持ち、他個体と構築する社会関係の中でそうした認知能力を用いていると考えられます。

2. 掲載誌情報

Animal Behaviour（アニマル・ビヘイビアー）

（The Association for the Study of Animal Behaviour の査読付き国際学術誌）

3. 特別展示 期間：令和8年2月19日（木）～令和8年3月22日（日）

場所：北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）エントランス

4. 詳細情報 別紙参照

【本リリースに関する問い合わせ先】

北九州市立自然史・歴史博物館 自然史課 竹下(学芸員)

TEL：093-681-1011（呼出）、Email: takeshita_f@kmmh.jp

